

IDNo.	号数	年月	著者	題目	ページ	備考
539	216	H02. 2	中原正二	陸軍岩鼻火薬製造所(その2)	01~16	
540	216	H02. 2	川越重昌	硝石製造法図解(2) 上島半兵衛忠文の硝石製造法伝の場合(上)	17~47	
541	216	H02. 2	山田太郎	「海軍造兵史資料」 仮呉兵器製造所設立経過(完)	48~65	
542	217	H02. 3	川越重昌	硝石製造法図解(2) 上島半兵衛忠文の硝石製造法伝の場合(下)	01~24	
543	217	H02. 3	所荘吉・赤羽通重	松本市歴史資料館所蔵の韓国古火器について	25~39	共著
544	218	H02. 4	川越重昌	硝石製造法図解(3) 薩藩谷山での「作硝局実験鈔」の場合(上)	01~34	
545	218	H02. 4	澤田平	日野鉄砲	35~42	
546	219	H02. 5	川越重昌	硝石製造法図解(3) 薩藩谷山での「作硝局実験鈔」の場合(中)	01~18	
547	219	H02. 5	所荘吉・赤羽通重	補訂 松本市歴史資料館所蔵の韓国古火器について	19~22	共著
548	219	H02. 5	山田太郎	「海軍造兵史資料」砲桶の問題	23~45	
549	220	H02. 6	川越重昌	硝石製造法図解(3) 薩藩谷山での「作硝局実験鈔」の場合(下)	01~15	
550	220	H02. 6	山田太郎	「海軍造兵史資料」砲桶の問題(続)	16~32	
551	221	H02. 7	所荘吉	文永役の「てつはう」鉄砲と磁砲の関係	01~08	
552	221	H02. 7	粕谷利一	続 硝石考現学	09~43	
553	222	H02. 9	川越重昌	鹿児島市谷山作硝場(5). 薩摩火薬史跡実踏記(17)	01~19	
554	222	H02. 9	所荘吉	中国に於ける銅銃の出現とその展開	20~29	
555	223	H02. 10	川越重昌	鹿児島市滝の上製造場址終稿. 薩摩火薬史実踏記(18)	01~12	
556	223	H02. 10	赤羽通重	スランカメンの銃砲戦 ヨーロッパにもあった長篠合戦	13~26	
557	224	H02. 11	川越重昌	鹿児島敷根火薬製造所終稿. 薩藩火薬史実記(19)終	01~13	
558	224	H02. 11	山田太郎	「海軍造兵史資料」克式砲ノ採用	14~31	
559	225	H02. 12	川越重昌	五箇山塩硝私考(1)	01~30	
560	225	H02. 12	生田豊太郎	火繩についての考察	31~46	
561	226	H03. 2	川越重昌	五箇山塩硝私考(2)	01~31	
562	226	H03. 2	岡田登	仙台花火小史	32~82	
563	227	H03. 3	川越重昌	五箇山塩硝私考(3)	01~23	
564	227	H03. 3	岡田登	尾張花火の歴史その一考察(その1)	24~33	
565	227	H03. 3	山田太郎	「海軍造兵史資料」速射砲ノ採用	34~41	
566	228	H03. 4	川越重昌	五箇山塩硝私考(4)	01~30	
567	228	H03. 4	安斎実	世界射撃史	31~53	
568	229	H03. 5	川越重昌	五箇山塩硝私考(5)	01~36	
569	229	H03. 5	山田太郎	「海軍造兵史資料」 32 増加式砲採用ノ経緯	37~57	
570	230	H03. 6	川越重昌	五箇山塩硝私考(6)	01~23	
571	230	H03. 6	安斎実	世界射撃史(第2回)	24~34	
572	231	H03. 7	川越重昌	五箇山塩硝私考(7)	01~18	
573	231	H03. 7	赤羽通重	「ヨーロッパ火繩銃」見聞記	19~27	
574	232	H03. 9	川越重昌	五箇山塩硝私考(8)	01~20	
575	232	H03. 9	生田豊太郎	タンネンベルク銃筒のレプリカについて	21~38	
576	232	H03. 9	山田太郎	「海軍造兵史資料」克式砲ノ採用(続)	39~52	
577	233	H03. 10	川越重昌	五箇山塩硝私考(9)	01~26	
578	233	H03. 10	赤羽通重	(承前)「ヨーロッパ火繩銃」見聞記	27~38	
579	233	H03. 10	山田太郎	「海軍造兵史資料」山内閉鎖機及ピ山内砲架ノ採用	39~63	
580	234	H03. 11	川越重昌	五箇山塩硝私考(10)	01~20	
581	234	H03. 11	所荘吉	砲術諸流派の調査(補遺)	21~47	
582	235	H03. 12	川越重昌	五箇山塩硝私考(11)	01~21	